

# 環境保全報告書(令和4年度)

2023年6月

新明和工業株式会社  
航空機事業部 甲南工場

環境保全事務局

# 1. 重点課題の取組みに係る報告

環境目的		2022年度		備考
		年度計画	実績	
1 気候変動への対応		-		-
・CO2排出量 低減	CO2排出量 [t-CO2]	年間:11,133以下 (改定後目標)	10,891 <sup>※</sup>	◎ 改定後目標値に対して達成。
2 人材育成 ・環境保全活動に係る 従業員の知見、意識の向上		①-1 教育資料(専門教育/職制教育) ①-2 環境ルール策定(サプライチェーン用) ②-1 リサイクル容易化提案活動 1件以上 ②-2 省エネ取組み提案 3件以上	①-1 水質リスク教育用資料作成済、 教育予定。廃棄物分別資料は作成中。 ①-2 取組み出来ず ②-1 ストレッチフィルムの有価物化 取組みを試行 ②-2 「甲南工場省エネ大作戦」での 各部門取組みを参照方	△ 23年度は本項(教育の 充実)を重点目標として 取組を実施
3 廃棄物削減とリサイクル		-		-
・排出量の低減	廃プラ排出量 [t]	年間:133以下 (改定後目標)	138 <sup>※</sup>	○ 廃プラ:○前年度より減 廃木材:×前年度より増 処分費:◎目標達成 →「○:前期より改善」 とした。
	廃木材排出量 [t]	年間:131以下 (改定後目標)	151 <sup>※</sup>	
	処理費 [k¥]			
4 水質・土壌の安全管理 ・化学物質の適正管理		③-1 SDSデータベース化整備作業 (SDS最新版の入手活動も継続) ③-2 追加管理の要否判断 (海外法令等の該当法令/要対応 業務内容の正確な理解含む)	(直材の副資材について、3月末現在: 要入手/入手済:788 →登録済:360) (海外法令等対応については一旦法令 と対象品目を確定。)	○ ・SDSデータベース化: →維持レベルで継続 ・(天龍)編入に係る実務 調整:現状把握・調整中

評価 ◎:目標達成、○:前期より改善(目標未達でも)、△:変化なし、×:悪化

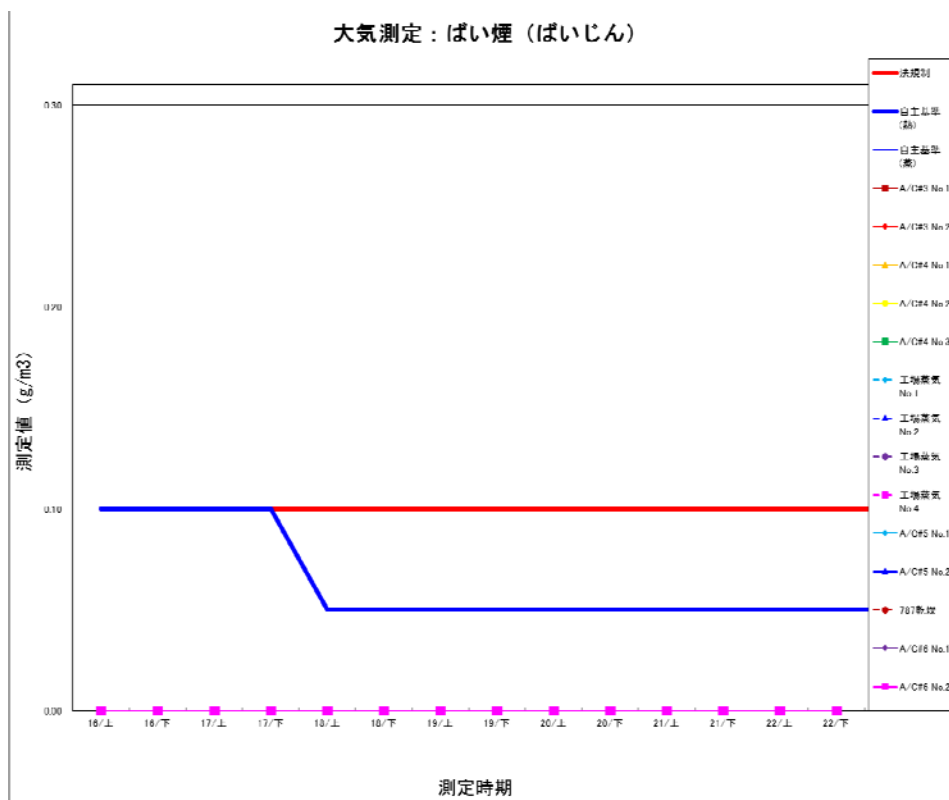
※ 航空機事業部全体(神戸市:甲南工場、神戸市以外:徳島工場・宝塚工場・播磨工場)の計画・実績。  
CO2排出量は電力消費量に社内基準の係数を掛けて算出。(温対法報告基準ではない。)

## 2. 公害防止対策に係る報告

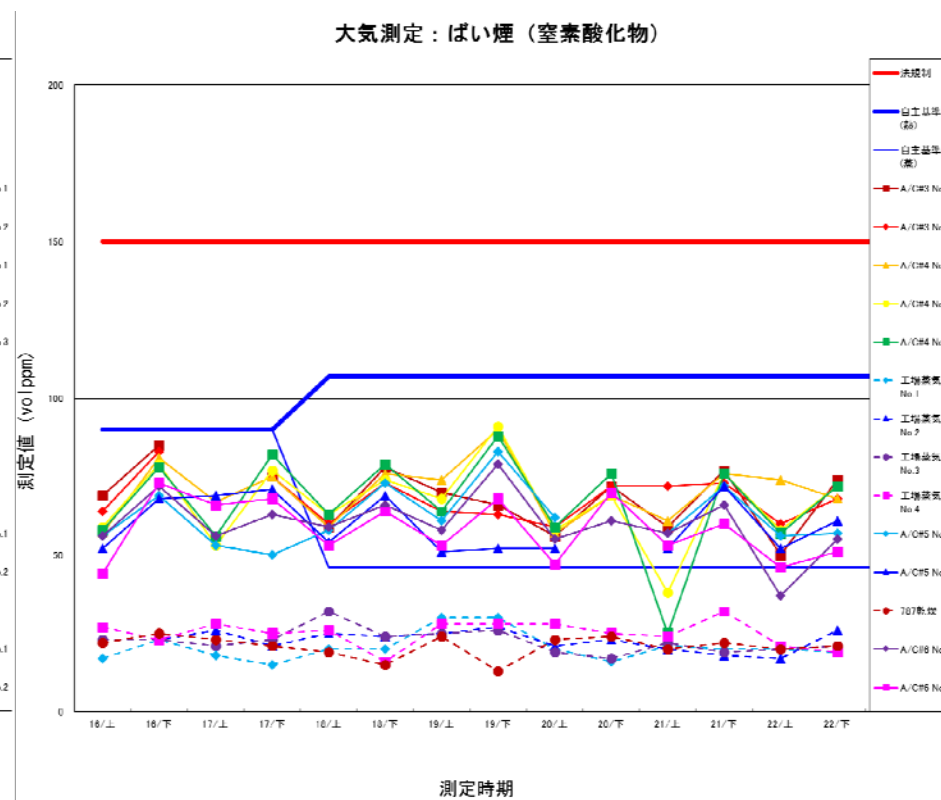
公害上の分類	管理項目	管理方法	目標達成のために講じた措置・対策	測定結果	評価
大気汚染	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラー燃焼で発生する窒素酸化物、ばいじん</li> <li>・洗浄施設で発生するVOC</li> <li>・塗装設備等で発生する廃ガス</li> </ul>	社内「大気管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラーメーカーによる定期点検を継続実施。</li> <li>・遠隔監視システム契約を継続し、常に最適な燃焼状態を維持。</li> <li>・設備作業前点検を順守、排気フィルタ類は定期的に清掃・交換を実施。</li> </ul>	定期測定結果は結果①参照  測定対象無し	○
水質汚濁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産系排水</li> <li>・生活系排水</li> <li>・雨水排水</li> </ul>	社内「水質管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間連続監視による兆候管理を継続。</li> <li>・定期採水分析による監視を継続。</li> <li>・雨水側溝の清掃点検を実施。</li> </ul>	定期測定結果は結果②参照	○
騒音・振動 ・悪臭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地境界線における設備騒音</li> <li>・飛行艇エンジン運転時における管理基準の順守</li> </ul>	社内「騒音・振動・悪臭管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒音定期測定(2回/年)を実施。</li> <li>・飛行艇エンジン運転時の日時順守を徹底する。</li> </ul>	定期測定結果は結果③参照  測定対象無し	○
産業廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物</li> <li>・特別管理産業廃棄物</li> <li>・事業系一般廃棄物</li> </ul>	社内「廃棄物管理基準」に従い、測定を通じて順守状況を確認し、問題があれば速やかに改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物置場の定期巡視による飛散、漏洩の防止</li> <li>・廃棄物処理業者の視察による適正処理確認</li> </ul>	定期巡視の継続実施により問題なし  マニフェストの終了確認及び業者聞き取りにより確認	○
土壌汚染	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有害物質使用特定施設</li> </ul>	社内「土壌管理基準」に従い、有害物質使用特定施設の定期的な点検を実施し、問題があれば速やかに改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有害物質使用特定施設について定期的な点検を実施。</li> </ul>	特定施設の定期点検結果、問題無し	○

## 2. 公害防止対策に係る報告

### 2-1. 定期測定（結果①：大気汚染）



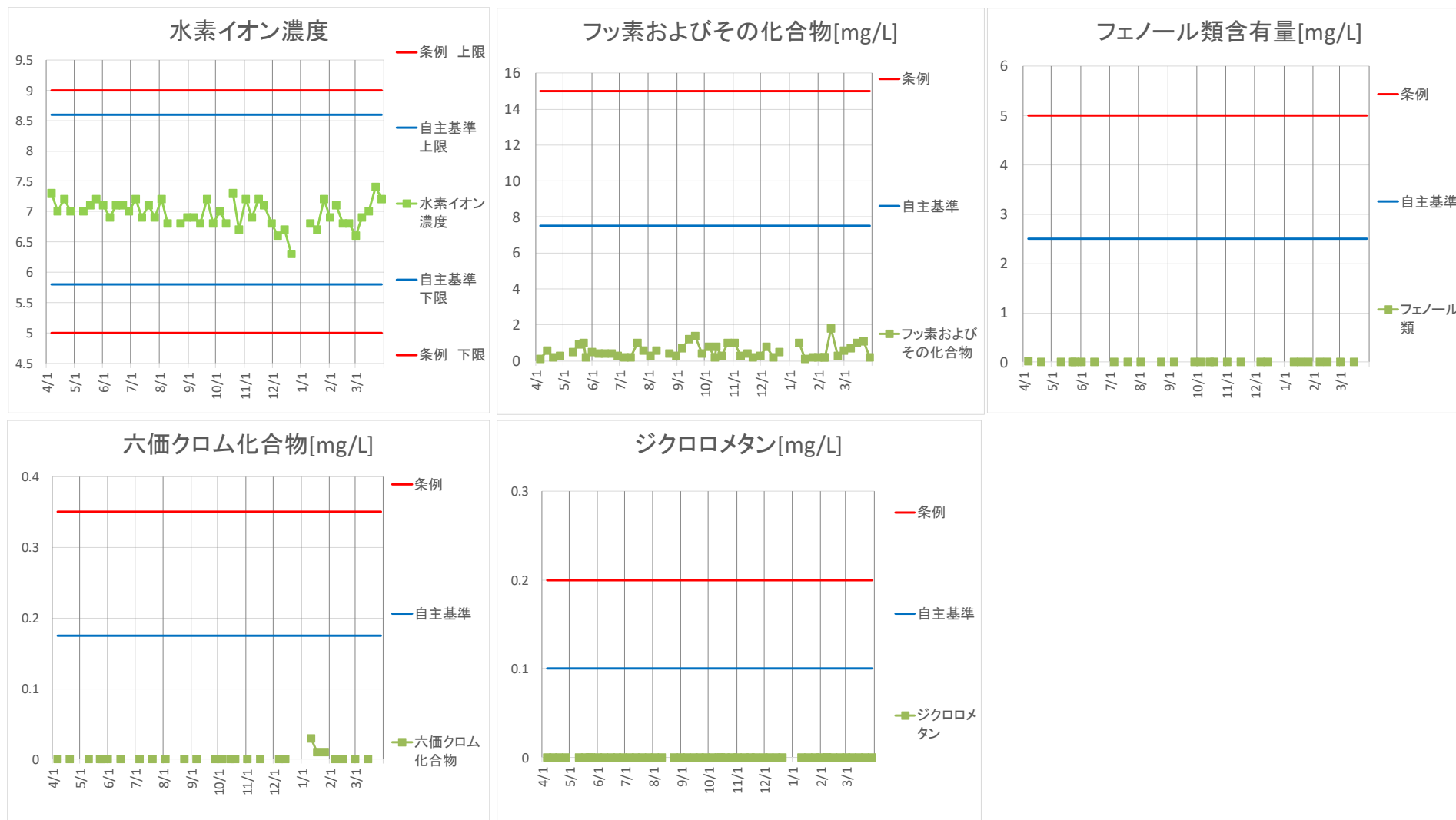
ばいじん



窒素酸化物

## 2. 公害防止対策に係る報告

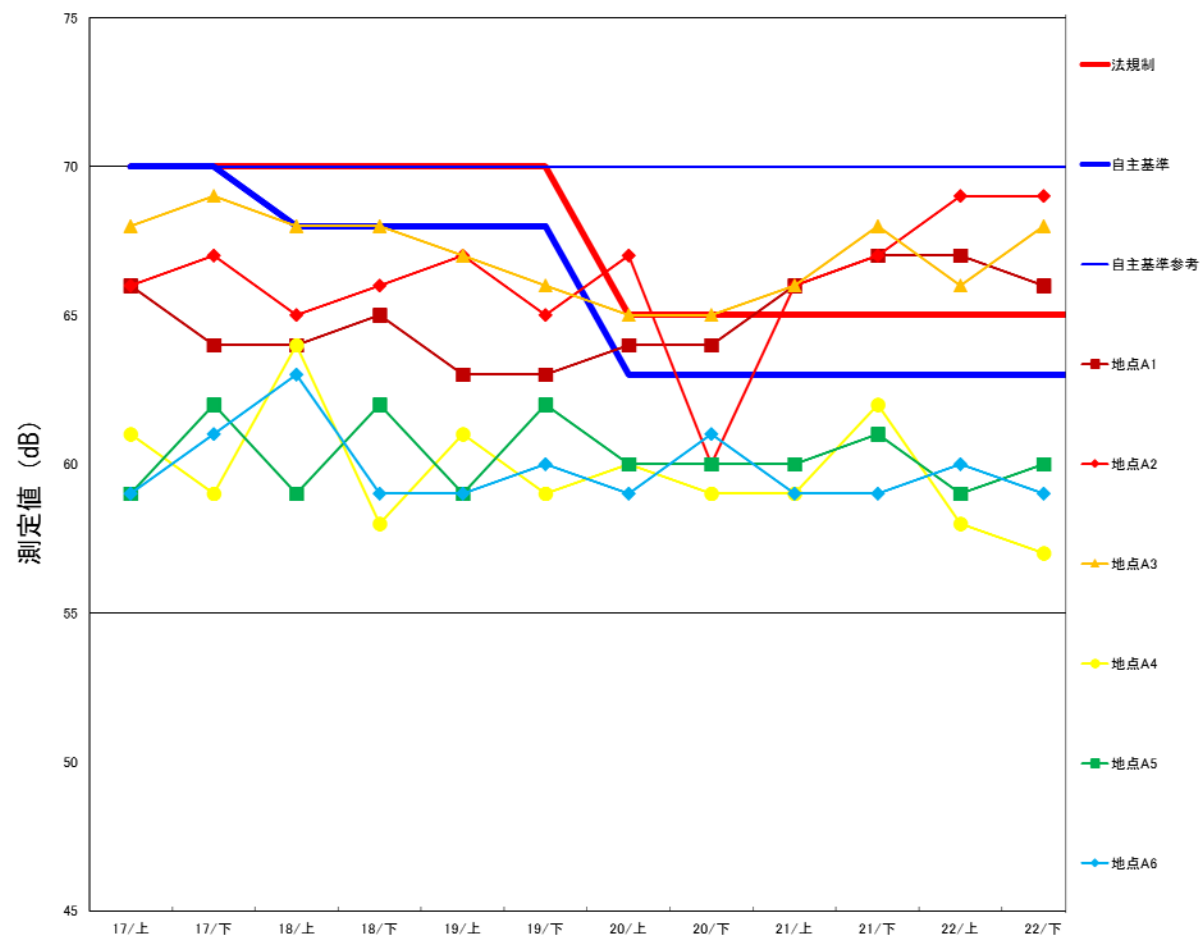
### 2-2. 定期測定（結果②）：水質汚濁



## 2. 公害防止対策に係る報告

### 2-3. 定期測定（結果③）：騒音

騒音測定：昼（08：00～18：00）



※生産量の激減・一部製品の操業休止などを考慮し、昼間のみ結果を示す。

### 3. 地球温暖化対策に係る報告

#### 3-1. 電気・燃料等の使用量、温室効果ガス（CO2のみ）排出量

（甲南工場のみ：兵庫県条例に基づく実績／計画の報告より）

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量 (MJ)	排出係数	排出量	温暖化係数	合計
					kg-CO <sub>2</sub> /MJ	kg-CO <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>	(CO <sub>2</sub> 換算)
燃料の使用	原料炭			28.9	0.0867			
	一般炭		kg	26.6	0.0906			
	A重油		ℓ	39.1	0.0693			
	B重油		ℓ	40.4	0.0705			
	C重油		ℓ	41.7	0.0716			
	LPG	186	kg	50.2	0.0590	558	1	0.6
	都市ガス	1,192,816	Nm <sup>3</sup>	45	0.0499	2,676,679	1	2,676.7
	ガソリン	1,600	ℓ	34.6	0.0671	3,715	1	3.7
	灯油	5,832	ℓ	36.7	0.0678	14,519	1	14.5
	軽油	2,346	ℓ	37.7	0.0686	6,064	1	6.1
	その他 (廃棄物等)		kg	42.3	0.0762			
電気事業者から供給された電気の使用		19,816,849	kWh		0.311 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)※	6,163,040	1	6,163.0
		2,201,874	kWh		0.000 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)※	0	1	0.0
熱供給事業者から供給された熱の利用			MJ					
ドライアイスの使用		1,600	kg			1,600	1	1.6
合計								8,866.2

※電気に係るCO2排出係数：温対法報告での基準（排出した年度の「前年度」実績からの調整後排出係数）  
電力使用量の10%をCO2フリーとして扱う需給契約を2022年1月より適用開始。

## 3. 地球温暖化対策に係る報告

### 3-2. 当該年度の計画達成状況 (単位：t)

(甲南工場のみ：兵庫県条例に基づく実績／計画の報告より)

温室効果ガス	基準年度 排出量(a) 2017年度	現況 排出量(b) 2022年度	2030年度目標	
			抑制目標量(c)	達成率(%)
二酸化炭素※ (参考：電力の CO2排出係数)	18,831.9 (0.453)	8,866.2 (0.311)	11,675.7 (0.250)	139.3
メタン	0.6	0.5	0.4	70
一酸化二窒素	0.1	0.1	0.1	131.6
HFC	2.5	1.4	1.5	110.7
PFC	0.0	0.0	0.0	-
六フッ化硫黄	0.0	0.5	0.5	-
三フッ化硫黄	0.0	0.0	0.0	-
合計	18,835.1	8,868.6	11,678.3	138.0

※電気に係るCO2排出係数：温対法報告での基準(排出した年度の「前年度」実績からの調整後排出係数)

$$\text{達成率(\%)} = \{(a)-(b)\} / \{(a)-(c)\} \times 100$$



## 3. 地球温暖化対策に係る報告

### 3-3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

抑制措置 大分類	具体的対策	削減目標／削減量	実施状況
省エネルギー等 低炭素型事業 活動の徹底	a)電力使用量の予実管理データをより詳細に提供 b)CO2フリーエネルギーの適用拡大 c)空調機器など点検、室外機の熱交換器洗浄 d)コンプレッサの適切な点検・運用 e)24h空調設備の台数間引き／操業に応じて 一時休止 f)生産活動の効率化(残業・休出の縮減) g)照明・OA機器の消し忘れ防止(昼休み・夜間) h)空調の適正な使用(夏期:28度、冬期:20度) 等の定着した節電活動	電力:▲798千kWh/年 ／▲722千kWh/年 達成  電力:2,140千kWh/年 をCO2フリー化	a)継続して運用・管理実施中。 b)電力の10%をCO2フリーとする契約を 継続中 c)～e) 省エネ促進に係るコンサル 受審により活動徹底  f)～h) 継続して運用・管理実施中  ※その他蒸気漏れ・エア漏れの修理 断熱未施工部の断熱施工
製造設備又は 事務所ビルの 低炭素化	a)高効率反射板付メタハラ電球・LED照明の導入 b)R22フロン使用機器の高効率空調機器への 更新 等の効率化機器適用	電力:▲19千kWh／達成	a)LED照明更新実施 (400型水銀灯→LED灯具へ) b)空調機器更新実施 (冷房能力 計56kW相当) ※その他省エネVベルトへの交換多数

## 4. その他環境保全活動に係る報告

(航) ESG No.	ESG重要課題	項目	細目	22年度目標	22年度結果	評価
3	環境にやさしい製品	・有害化学物質の 適正管理と削減	使用量の削減 低環境負荷材料の理解 含有物質算出精度の向上	購入量・使用量・廃棄量の調査及び集計を継続 適用法令(海外・国内)のより深い理解の推進	SDSにより有害化学物質の含有材料を調査・把握	○
4	気候変動への対応	・フロン適正処理	定期点検によるフロン類漏洩の予防 保全を実施	全数(100%)	100%自主点検実施	○
5	水質・土壌の安全管理	・廃水処理・表面処理での 事故撲滅 ・PCB管理	予防保全実施による突発事故の撲滅  棚卸し実施、保管状況の確認	事故0	外部への流出事故0	○
				年1回(11月)	9月に実施	
7	廃棄物削減と リサイクル	～産業廃棄物～ ・発生量の抑制  ・排出量の抑制  ・埋立量の削減	積層プログラムの改善による複合材料 使用量を削減 有効期限付材料の購入量適正化 有効期限付材料の廃棄管理徹底 有価物化の推進 廃プラの分別徹底 ガラス・陶器類のリサイクル業者の開拓	508t/年	333t/年	○
				2.5t/年	0.5t/年	
		～一般廃棄物～ ・排出量の抑制 (「可燃ごみ」)	紙、プラスチック類、缶、ペットボトル類の分別 回収推進による排出量削減・勉強会  回収時の立会チェックと分別指導	5,000kg/年	5363kg/年	×
12	人材育成	・必要資格保有者の 育成・確保 ・緊急時の訓練	特別管理産業廃棄物管理責任者資格の拡充  表面処理、危険物貯蔵所、給油所での 漏洩を想定した緊急時訓練を実施	資格1名取得	資格1名取得	○
				各訓練項目で年1回以上	各訓練項目にて全4回 実施	
14	コミュニティとの調和	～工場騒音の監視～ ・飛行艇エンジン運転 試験の適正管理 ・工場設備の稼働状況 監視	近隣自治会等へエンジン運転情報の連絡  エンジン運転スケジュールの厳守  敷地境界での騒音測定実施 一部設備の夜間早期稼働制限を実施	苦情0	苦情0	○
				法規制値順守	超過0	
		自主基準値順守	超過0			
18	基本と正道の徹底	～ISO14001の維持管理～ 内部監査 定期サーベランス 見直し会議	年1回以上実施  審査機関：日本環境認証機構 活動を振り返り、将来への改善提案	年2回以上	10月、3月に実施	○
				7月	7月に実施	
				年2回以上	10月、4月に実施	